

平成 29 年度前期「霞ヶ浦湖岸植物同好会」観察活動の報告

今期の課題:今夏は霞ヶ浦湖岸で既存植生に驚異のオオバナミズキンバイなど特定外来生物の繁茂が話題になった。

月/日	調査区	植物調査概況 (EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧種、特外:特定外来生物)
4/13	AB	湖岸は春の草オドリコソウやノジシャ、トウダイグサが開花し、ガマやヨシ、オギも芽生えてきた。
	EFGH	昨年末に整理したE区で大群生したノウルシが一斉に開花した。ヤナギ類も展葉と同時に花を付けていた。
	KL	低地でカサスゲに花穂が付き、ミズオトギリ(県 NT)も発芽した。水路畔でアサマスケ(県 EN)の穂が出た。
5/11	AB	A区低地ではヘラオオバコやキシヨブが花を咲かせ、弁天宮前堀ではタヌキモの生育域が殖えていた。
	EFGH	ヨシが伸びオオヨシキリが囁るH区低地でヤナギトラノオ(県 VU)が開花した。法面ではノイバラが花盛りだ。
	KL	湖岸ではジャヤナギの緑が濃くなり、雄花序を下げたオニグルミの枝先で子房が膨らんでいた。
6/8	AB	弁天宮前堀のタヌキモが花をつけ、隣にササバモ(県 VU)の生育を発見。B区水際でウキヤガラが群生。
	EFGH	H区再生干潟でタケトアゼナとアゼナが群生して花をつけ、ミゾハコベやトキンソウ等の新出種も見られた。
	KL	クリが満開。川尻川沿いでイヌザクラ、ミズキが実を付けた。堤脚水路のカワジシャ(NT)が花と実を付けた。
7/13	AB	A区低地はヨシやオギ、セイタカアワダチソウが超繁茂し、B区水際は満開のミズヒマワリ(特外)で圧巻だ。
	EFGH	H区再生地にササバモ(県 VU)や新出種のアゼガヤとコスズメガヤが出現し、ミズヒマワリも満開だ。
	KL	甘い香りが漂うネズミモチとタンキリマメに訪花昆虫が来ていた。ヤブマオの花序に密集した小花が。
8/10	AB	A区低地、繁茂したヨシやオギ等の縁でノブドウやヤブマオが絡んでいた。B区ミズヒマワリは依然旺盛だ。
	EFGH	H区再生地のミズアオイが紫の花を付け、E区のシロバナサクラタデが開花し、ビナンカズラも蕾を付けた。
	KL	L区堤脚水路にオオフサモ(特外)が繁茂し通水阻害要因となる。近くでミズアオイやオモダカが開花した。
9/14	AB	A区イベント広場でクサネムが群生。B区低地はツルマメに覆われ、アレチウリの生育域も広がってきた。
	EFGH	低地でヒガンバナやサデクサが開花し、再生地に新出種のコウキヤガラとヒメミズワラビが出現した。
	KL	堤内法面でアズキ(小豆)の原種ヤブツルアズキを発見。東側のワンドでアサザ(国 NT、県 VU)が満開だ。



4月E区ノウルシ(トウダイグサ科)多年草
国、県:準絶滅危惧種(NT)。独特の香。



5月H区ヤナギトラノオ(サクラソウ科)
県絶滅危惧 II 類。多年生寒冷地植物。



6月A区タヌキモ(タヌキモ科)食虫植物
根を持たない浮遊性多年草。国:NT。



7月B,H区ミズヒマワリ(キク科)多年草
中南米原産,特定外来生物。繁殖力強。



8月L区オオフサモ(アリトウグサ科)
ブラジル原産,特定外来生物。多年草。



9月B区アレチウリ(ウリ科)つる性1年草
北米原産,特定外来生物。花期:8-9月
(パートナー 有吉)